

計画の推進

計画の推進体制

地域の生活課題は、複雑・多様化しており、地域だけでは解決できない課題も多く、これらを解決するためには、重層的な地域内での支援とともに、専門的な支援による対応が欠かせません。

今回、地域福祉計画と地域福祉活動計画とを一体的に策定したことを契機として、市と社会福祉協議会は強い連携のもと、実効性を確保しつつ計画を進めます。

計画の普及啓発

本計画の普及・啓発に向けては、計画書や概要版を関係機関へ配布するとともに、市と社会福祉協議会の広報誌やホームページ等を通じて周知します。

計画の進捗管理・評価

本計画の実効性を高めるため、PDCA(計画(P l a n)、実行(D o)、評価(C h e c k)、改善(A c t))サイクルにより、市関係各課等や社会福祉協議会において、毎年それぞれの進捗状況を取りまとめると同時に、各地域で地域福祉懇談会の推進を図り、市民からの意見集約に努めます。次に「地域福祉計画推進委員会」において、それらを総合的に評価し、計画を進めます。

へきなん地域福祉ハッピープラン

第2次碧南市地域福祉計画



概要版

へきなん地域福祉ハッピープラン

第2次碧南市地域福祉計画

平成 28 年 3 月

発行：碧南市
社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会

編集：碧南市 福祉こども部 福祉課
〒447-8601 愛知県碧南市松本町 28 番地
電話：0566-41-3311 (代表) FAX:0566-48-2940
<http://www.city.hekinan.aichi.jp/>

社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会 地域福祉課
〒447-0869 愛知県碧南市山神町 8 丁目 35 番地
電話：0566-46-3702 (代表) FAX:0566-48-6522
<http://www.hekinan-shakyo.jp/>

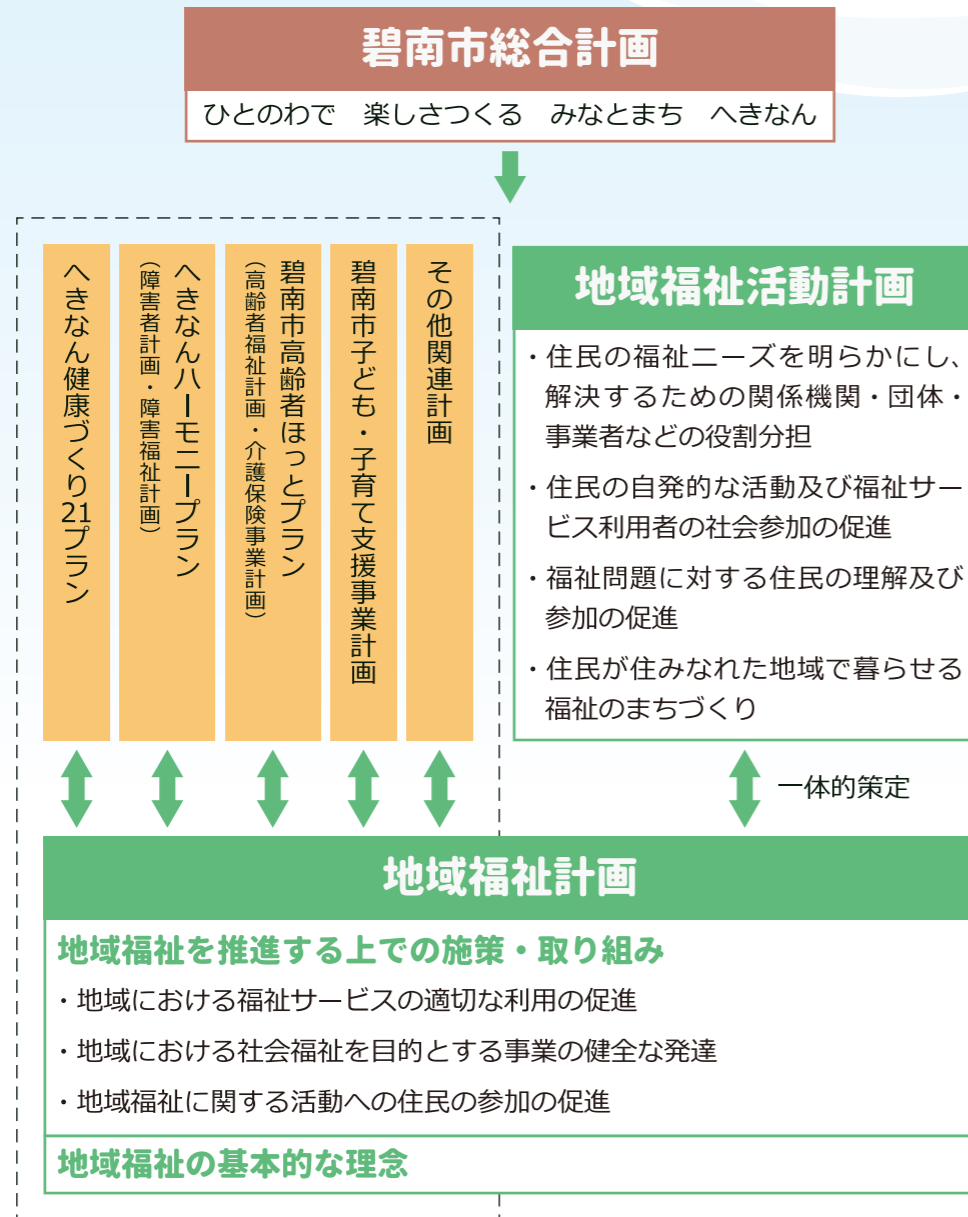
平成 2 8 年 3 月
碧南市・碧南市社会福祉協議会

地域福祉とは

これまでの「福祉」では「特定の人のため」という意味合いが強く、行政がその対象者ごとに必要な福祉サービスを提供するものが一般的でした。しかし、地域に暮らす誰もが日頃の生活の中で何等かの問題を抱え、簡単な手助けを必要としており、地域の住民同士によるちょっとした手助けで解決できることもたくさんあります。

「自助」「共助」「公助」といった重層的な取り組みによって支援され、市民相互の助け合い・支え合いの力があり、「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるよう、市民が主体的に行う取り組み」、「地域における助け合いの仕組み」が『地域福祉』と言えます。

計画の位置づけ



基本目標 5 安心・安全を高める地域づくり

現状と課題

- 「碧南市地域防災計画」では、平常時より、避難行動要支援者に関する情報を把握の上、関係者との共有に努めることとしています。アンケートでは、「日々の暮らしの中での不安」について、「自分や家族の健康」に次いで「災害への不安」があげられています。地域福祉懇談会では「防災活動に関心が薄い」「防災連絡網が分からない」といった意見があげられています。平常時から災害への備えとして、自主防災会の育成と活動を支援し、地域の防災力強化に取り組みます。
- 地域において安心して快適な生活を送るためには、日常の見守り活動及び地域ぐるみでの防犯対策の推進が必要になっています。安心・安全な地域を実現するためには、市民一人ひとりが地域に対して、気配り・目配り・思いやりの心を持ち、日常から助け合い、支え合うことが基本となります。
- 地域における住民同士のつながりや相互扶助の関係が希薄化する中にある場合は、改めて地域福祉の必要性や理念等を、市民全体に浸透させていくことが重要となります。地域福祉懇談会においても、「障害者や生活保護受給者への偏見がある」といった意見があげられています。

今後の取り組み

基本方針1 家庭・近所・地域での防災対策の充実

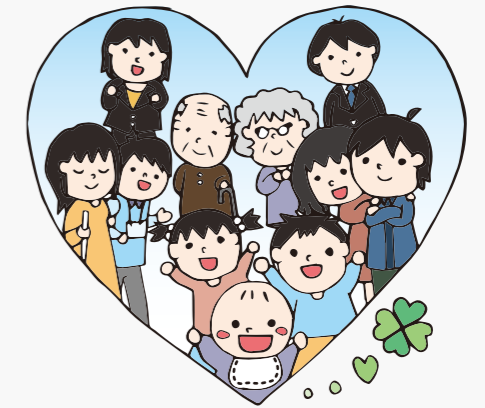
- 災害時の支援体制づくり
- 災害ボランティアと自主防災会との連携

基本方針2 地域の見守り・防犯活動の推進

- 見守り活動の推進
- 地域ぐるみでの防犯対策の推進

基本方針3 権利擁護の充実

- 権利擁護の推進



各地区のスローガン

地域福祉懇談会でまとめられた各地区の今後の取り組みに関するスローガンを紹介します。

新川地区

- 毎月つながろう！しんかわ
- お年寄りが輝けるまち しんかわ
- 音楽でつなぐまち ～花かざり 地区ざかり～

中央地区

- 朝活
- 楽しさつなく 住んでて良かった中央！
- 男が変われば地域が変わる！！
- あいさつで 知り合い増える 中央地区

大浜地区

- あつまりん大浜
- 神社・寺まちコミュニケーション～身近なところからつながる大浜～
- あいさつがあれば買物難民(高齢化社会)が救える！！
- 課題を希望に変える♪～人と人とのつながりをつくろう～

棚尾地区

- 幸せな老後は TANAQ から
- ふれあいのまち棚尾 (TANAQ) ～新たに歴史をきざむ～
- 大家族 学ぼう 遊ぼう つながろう！！
- まちづくり協議会で「世界一のコミュニティー」

旭地区

- 地域の大家族計画
- 花と笑顔とあいさつで明るい旭
- 楽しく繋がる地域 cafe！！
- ふれあいカフェ

西端地区

- ひるまずあいさつ 笑顔の西端
- 誘って皆で やろまい西端！！
- つながっていくんだ“わ”(和・輪) ザ・西端
- 挨拶の輪でつなぐ 安心・安全な西端
- 友達いっぱい 楽しいくらし
- 人と人の輪を広げ、安心安全な地域を作ろう！

基本目標3 地域福祉活動を支える人づくり

現状と課題

- アンケートからは、ボランティアの参加状況の中で約50%が「参加したことはない」と回答し、また、参加経験のある人のボランティア内容では、「まちの美化・清掃」等に比べ、「高齢者支援」「障害者支援」はあまり多くありません。
- 日常生活の課題の多くは、家族や地域社会の力で解決されていましたが、社会情勢の変化等により家族や地域社会の力が弱まった今、改めて家族や地域社会の力を強める重要性和、ボランティア等による支え合い助け合いの必要性が認識されています。

今後の取り組み

基本方針1 地域福祉を担う人材等の育成

- ボランティア育成支援
- 地域福祉リーダーの育成

基本目標4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり

現状と課題

- 広報誌やホームページ等を利用した情報提供に取り組んだり、スマートフォンやタブレット端末等新たな媒体を活用して対応していくことが必要となっています。
- アンケートでは、「日々の暮らしの不安」について、「子育てや教育」が30歳代では他の年代よりも高くなっています。地域全体で対応できる支援体制づくりを検討していくことが必要となっています。
- 高齢者及び障害者が住み慣れた地域で生活を続けるために、必要なサービスが適切かつ円滑に利用できることが重要です。また、生活保護受給者や生活困窮者の自立への支援だけでなく、誰もがお互いに支え合える地域を作っていくことが重要です。地域の身近な民生委員等や専門相談員等による個別相談を通じて、生活課題の発見と生活実態に沿った福祉サービスの質の確保及び向上に努めるとともに、これらを地域住民自らの問題と認識し、課題を共有して解決に向かうことも今後必要です。

今後の取り組み

基本方針1 情報提供及び支援ネットワークの充実

- 情報提供の充実
- 支援ネットワークの充実

基本方針2 安心して子どもを生み育てられる環境づくり

- 子育て支援体制の充実
- ボランティア等による子どもの遊び場づくり
- 子どもに関わる団体の情報集約とネットワークづくり

基本方針3 高齢者・障害者・生活困窮者の自立支援

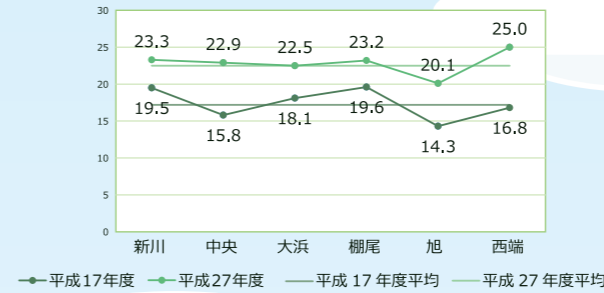
- 福祉サービスの質の確保及び向上
- 介護者等の支援
- 生活困窮者の自立支援



碧南市の現状

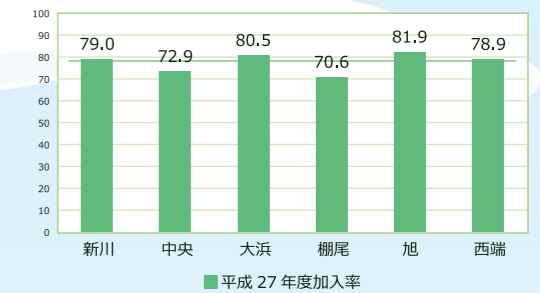
人口

地区別高齢化率 (%)



市全体では、平成17年度では17.2%、平成27年度では22.5%と5.3%増加しています。地区別では、西端地区が平成27年度で25.0%と最も高齢化が進んでいます。

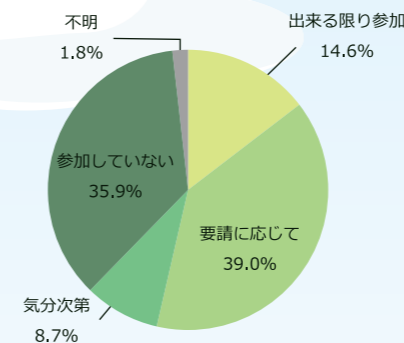
町内会加入率 (%)



町内会加入率では、地区による差も見られますが、全体的に70～80%の加入率となっています。

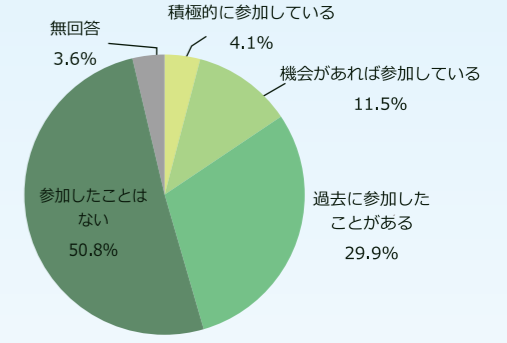
アンケート結果

アンケート「地域活動への参加頻度」



アンケート結果によると、地域の行事への参加について「要請に応じて」が39.0%と最も多く、次いで「参加していない」が35.9%と、主体的な参加姿勢となっていない。

アンケート「ボランティアの参加経験」



ボランティアの参加状況について約50%が「ボランティアに参加したことはない」と回答しており、約半数が未経験となっています。

地域福祉懇談会

目的

地域の福祉課題の抽出を行い、抽出された課題に地域のネットワークシステムを作りながら住民が主体となって取り組む計画の策定を行うため、「共に生き、相互に支えあうことができる地域」の構築を目指し、「地域の出来事を自分事として考える。」をテーマに地域福祉懇談会を市内6地区にて2回開催し、各地区代表者及び希望者が参加しました。

まとめ

各地区とも、良い点や強みについて「人づきあい」や「地域のつながり」といった意見が多くありましたが、一方で「新しく入ってきた人の顔がわからない」、「町内会や消防団等の担い手がいらない」等の意見もありました。地域でできることとしては、「近所同士のあいさつ」や「人や各団体、多世代との交流の機会」といった意見が多くありました。参加された地域の方々からは、この懇談会の取り組みを通じて、「地域の様々な団体・個人が地域の課題を出し合い、その解決のための取り組みについて話し合えたことがとても有意義だった」との意見が多くありました。

現状からわかる課題

1. 日々の生活において福祉意識をさらに高める
2. 世代間での交流機会の創出
3. 多様化する福祉問題に対応した福祉サービス、相談体制の整備
4. 地域福祉の担い手の育成
5. 地域ぐるみで安心・安全を高める体制づくり

基本理念

地域で築く つながり 支えあうまち へきなん

第2次地域福祉計画の基本的な考え方である「共に生き、相互に支え合うことができる地域」の構築及び「地域の出来事を まず自分事として考える。」ことに取り組みながら、生活圏域を基礎に高齢者、障害者、子ども等地域を構成している市民一人ひとり、住民組織、様々な関係団体、社会福祉協議会及び市において「自助（自立）」、「共助（支え合い）」、「公助（支援と保障）」を継続して進めていくこととします。

基本目標

基本理念の実現及び5つの課題解決には、環境づくり、人づくり、場づくり等といった施策が必要であるため、次のとおり5つの基本目標を設定しました。

基本目標 1 福祉の意識を高める環境づくり

子どもや大人に限らず、すべての住民が様々な機会を通じて、支えあい、助け合いの意識を理解し、地域福祉への関心と意識が高まるよう環境づくりを進めます。

基本目標 2 世代間や地域での交流の機会づくり

隣近所や町内会等、最も身近な住民同士のつながりは、地域福祉の原点となるものです。そこで、身近な地域で様々な交流の場や住民同士が顔を合わせられる機会を設け、交流の機会をつくっていきます。

基本目標 3 地域福祉活動を支える人づくり

町内会やボランティアグループ等の福祉団体及び市、社会福祉協議会が協働し、人材の育成・発掘を進めるとともに、今日的な福祉ニーズや課題に応じた活動団体の育成・組織化等、地域福祉活動の人づくりを進めます。

基本目標 4 多様化する福祉課題に対応する支援体制づくり

地域には、個人では解決することが難しい福祉課題が様々にあります。これらの福祉課題について、地域住民を始め、町内会や民生委員等の各種団体や機関等と協働して解決していくことが必要です。さらに、地域福祉の推進機関である社会福祉協議会の充実や住民参加型による福祉サービス・支援活動を促進する体制づくりを進めます。

基本目標 5 安心・安全を高める地域づくり

地域の安心と安全はそこに暮らす自分たちで守っていくという意識のもと、住民による主体的な防災・防犯活動を中心としながら、関係機関や団体等の連携・協力体制を強化していくことで、より安心・安全を高めることができる地域づくりを進めます。

基本目標 1 福祉の意識を高める環境づくり

現状と課題

- アンケートから、「地域活動への参加頻度」について「参加していない」と回答した人は、平成 17 年度よりも平成 26 年度調査でわずかに増えている状況で、地域福祉の考えが市民に十分浸透していない部分があります。地域福祉懇談会においても、「町内会に入らない人が増えている」「ボランティア活動は決まった人ばかりが実施している」という意見があげられました。
- 変化する社会経済状況の中では、従来のように家庭や地域での相互扶助を通じてお互いを思いやる気持ち、認め合う心を育む機会が減少しています。アンケートからも、ボランティア活動の参加経験のない方が多く見られます。
- 地域における課題が複雑化し、地域の活躍が必要不可欠となっていることから町内会活動が非常に重要な位置づけになります。町内会の周知及び加入促進を進め、町内会の役員や地域活動の担い手不足の解消に向け支援する必要があります。地域福祉懇談会でも、「町内会に入らない人が増えている」「町内会の役員や消防団員等のなり手がいない」という意見があげられました。

今後の取り組み

基本方針 1 地域における支え合い意識の向上

- 地域福祉に関する市民意識の向上
- 声掛け運動の推進

基本方針 2 福祉について学ぶ機会の創出

- 地域と学校の連携強化
- 学校教育における福祉教育の推進
- 地域福祉活動の機会づくり

基本方針 3 地域組織活動の推進

- 町内会周知と加入促進
- 町内会等地域活動の支援



基本目標 2 世代間や地域での交流の機会づくり

現状と課題

- 社会経済状況やライフスタイルの変化に伴い、地域から孤立する人々の問題がクローズアップされています。アンケートでは「地域活動への参加」について「要請に応じて参加」と「出来る限り参加」と回答した人と併せると、半数以上が地域活動への参加に意欲があり、参加するきっかけづくりが重要となっています。地域福祉懇談会でも「新しく地区に入ってきた人を知らない」「地域の施設（空き店舗等）でカフェを開けば、いろんな人が集まり、交流の場になるのではないか」という意見があげられました。

今後の取り組み

基本方針 1 地域での交流の機会づくり

- 公共施設等を活用した交流の機会づくり
- 交流できる居場所づくりの推進